



こ文×大学×地域が つながる体験イベント 「専修大学に行こう!」



三田こども文化センターと専修大学ネットワーク情報学部は、地域とのつながりを深め、施設や大学の魅力を広く発信することを目的に連携を進めています。その取り組みの一環として、7月31日(木)体験イベント「専修大学に行こう!」が開催され、三田こども文化センターを利用する小・中・高校生33名が専修大学生田キャンパスを訪問しました。

当日は、グループごとに研究室を巡りながら、プログラミングによるロボット操作、ジャイロセンサーを使ったゲーム体験、3Dプリンターやカッティングマシンの機材説明など、様々な最新技術に触れるプログラムが実施されました。

子どもたちは、初めて見る機材や技術に興味津々! 真剣な眼差しで大学教授や学生の説明を聞いていました。レーザープリンターで作成したオリジナルネームホル

ダーは記念に持ち帰ることができ、さらに無人コンビニでの買い物体験では、近未来のコンビニを肌で感じる貴重な機会となりました。

参加した小学生からは「無人コンビニでの買い物やロボットを動かすプログラミング体験が楽しかった」と、中高生からは「大学生との交流や体験を通して新しい発見があった。楽しく活動している様子を見て大学生活のイメージが膨らんだ。大学の取り組みに触れ、進路選択の参考になった」といった声が寄せられ、進路への関心を高めるきっかけとなりました。

三田こども文化センターでは、今後も地域の大学や団体との連携を通じて多様な学びの機会や体験を提供し、地域の絆を育みながら、子どもたちとともに未来の街づくりを進めていきます。



※こぶたは、当財団が管理運営するこども文化センター41施設のキャラクターです。 ※わくりんは、当財団が運営するわくわくプラザ76施設のキャラクターです。

かわさき市民活動センターは…

つながりから生まれる誰もが住みやすい地域社会を目指して、市民活動に必要なことをワンストップでサポート。多世代・多分野が集う場と子どもの居場所づくりを行っています。

開館時間 午前9時～午後9時 (日曜・祝日は午後5時半まで)
※各施設の利用時間は異なります

休館日 第3月曜日(祝日の場合は火曜日)



11/15(土)ごえん楽市2025開催します!

ごえん楽市は、川崎市内で活動する市民活動団体と出会える年1回の見本市です。67団体が活動紹介展示やワークショップ、パフォーマンス、相談など、多彩な企画を通じて活動を紹介します。

[ごえん楽市特設ページはこちら▶](#)



ナンバーゼロ 2025年 秋号 (通巻No.315)

【編集・発行】

公益財団 法人かわさき市民活動センター 市民活動推進課

〒211-0004 川崎市中原区新丸子東3-1100-12

電話: 044-430-5566 FAX: 044-430-5577

メール: suisin@kawasaki-shiminkatsudo.or.jp

WEB: <https://www2.kawasaki-shiminkatsudo.or.jp/volunt/>



Map



ポータルサイト「応援ナビかわさき」
<https://ouenavi-kawasaki.com/>



デザイン: スミナツコ

Number Zero

ナンバーゼロ

2025年 秋号

通巻 No.315

かわさき市民活動センター
ボランティア・市民活動情報紙

特集 | ミライをつくる学生のチカラ

現在、ボランティア、社会貢献という言葉が生活の中に浸透しています。「総合学習」や「総合的な探究の時間」の授業、市民活動のきっかけになるような講座やイベントの後押しもあり、最近では自分の興味関心を見つめたり、地域で活動する学生が増えています。今号では、川崎市内で活動する学生団体をご紹介します! 学生団体には、機動力、SNS 等での発信力など、参考にしたいところがたくさんあります。ぜひ一度、イベントやサイトをご覧ください。



ひしくら
if. 代表 菱倉なごみさん

元住吉で育って16年。放課後に高校生が気軽に集まれる居場所づくりをしたいと新しい団体「if.」をスタートしました。小学生のとき、インパクトがあるチラシにひかれて「こどものまちミニカワサキ」参加したのが、初めての市民活動です。ミニカワサキでは「行政」を担当して、まちの仕組みづくりが面白いと実感しました。これから、というときにコロナ禍で活動が自粛になってしまいましたが、運営側としてオンライン会議に参加するなかで、これからやりたいことを色々考える良い時間になりました。家族が活動に理解があり、私が考えた企画に父がアイデアを出してくれたりもします。

私はアートや音楽が好きなのですが、川崎は交通のアクセスがとても良い場所だと思います。私が住む元住吉は、昔からの個人商店があり、武蔵小杉まで足を延ばせば大型ショッピングセンターや行政の施設もあり、住みやすいまちだと思っています。

将来の夢は、まちの中心にアートや音楽の文化が共存している、年齢や性別などの壁を作らない、エイジレスでボーダレスな場づくりです。私の好きな川崎で、アートや音楽のハードルを下げて、当たり前のようにまちの中に存在している、そんな場所をつくれたらと、これからのまちづくりにワクワクしています!

中面に続きます▶

if. (いふ)

主に青少年をターゲットに、ふらっと来て好きなことを好きなだけできる場所を作ることが活動の目的です。例えば、おしゃべりする場所、友達と勉強する場所、音楽の練習ができる場所、ボードゲームができる場所、創作活動ができる場所。そんな場所が作りたくて活動しています。きっかけは「喋るための場所がない」と気づいたこと。

そして仲間から「音楽がしたい」「ボードゲームを楽しみたい」という声があり、想像以上に多彩なアイデアが広がりました。学校や性格はバラバラですが、それぞれに芯があり、とても刺激的な仲間です。私たちは中高生だからこそできる挑戦を続けています。学生の皆さん、自分の思いを大切にすれば必ず形にできます。地域の大人の皆さん、ぜひ耳を傾けてください。子どもの視点からこそ見える課題もあるはずです。

地域とのつながりを大切に挑戦を広げたい

川崎ワカモノ未来PROJECT (カワプロ)

川崎ワカモノ未来PROJECT (カワプロ) は、高校生が仲間や地域と共に自分の興味やまちづくりに挑戦する約3ヶ月のプログラムです。7月20日、中原市民館の「なかはらっぱ祭り」にて、カワプロ卒業生が企画したブース「やってみる展～高校生、〇〇始めました～」を出展しました。9期生7名を中心に、大学生・地域メンターの協力を得て実現した企画です。活動のきっかけは、「カワプロで生まれたつながりを大切にしたい」「もっと互いのプロジェクトを知りたい」という想いからでした。

今回の活動は一区切りですが、メンバーの中には今年度も高校生や大学生メンターとして参加する人もいます。これからも地域とのつながりを大切にし、カワプロの挑戦を広げていきたいと思います。

人と川崎市をつなぐイベントを開催

若者団体カワリープアクト

川崎市内でそれぞれ活動をしていた高校3年生7人が、ある意見交換会に集まったのがきっかけです。そこから「みんなで川崎市を拠点に何かやろう」という話になり、団体を立ち上げました。川崎市を盛り上げたいという各々の熱意が、現在の活動に至っています。現在のメンバーは大学生と高校生です。

主な活動は、イベントの企画・運営や清掃活動です。メンバーの興味関心に沿った様々な企画を、月一回程度、中原区上新城などで開催しています。清掃活動は、武蔵小杉をはじめ、東扇島（ビーチクリーンを含む）や溝の口周辺でも不定期に実施してきました。

若者だからこそできることは、数多くあると思います。今後はより色々な方々に私たちの活動を知っていただくとともに、イベントなどに足を運んでいただきたいです。そして、イベントの規模も大きくしていければと思っています。また、幅広い年代の方々と関わることや、人と川崎市をつなぐことのきっかけになるようなイベントを開催していきたいです。

学校にはない私たちの居場所をつくりたい！

特集

ミライをつくる 学生のチカラ

minna no ie

minna no ie 合は、川崎市立看護大学の学生が中心となって運営する学習支援サークルです。小学1年生から中学3年生を対象に、勉強のサポートや季節のイベント、体験活動を通して安心できる居場所を提供しています。活動は毎月第1・3土曜の午前中に大学内で行い、子どもたちが「たのいまい！」と帰れるあたたかな空間づくりを目指しています。

運営には他大学の学生や高校生も参加し、医療・福祉・教育などに関心を持つ多様なメンバーが、それぞれの視点や強みを活かして活動しています。きっかけは、前代表が横浜市の学習支援団体での経験から「自分でも居場所をつくりたい」と考えたこと。大学の後押しや仲間の存在に支えられ、学生だからこそできる支援を模索してきました。

今後は地域との連携を深め、世代を越えたつながりを育みたいと考えています。子どもたちだけでなく学生にとっても「帰ってこられる居場所」となれるよう、感謝を胸にあたたかな“ie”を育んでいきます。

誰もが「帰ってこられる居場所」の“ie”を育てる



ソーシャルデザインセンターでまちづくり

多摩SDC

「多摩区で活動しようとする人・団体の土壌を創る」「活動する人・団体に必要なものを準備しマッチングする」「地域活動への専門的支援、地域で人を育てる仕組みをつくる」などの機能がある多摩区SDCの中で、子ども食堂を中心に、地域の大学生・高校生・社会人が協力して活動しています。

スタッフにとつての居場所にもなっていて、多くを学び、トライ&エラーで成長する場になっています。友人から誘われて参加しているスタッフが多く、将来のためにここでの活動を経験したいという想いの学生もいます。

これから子ども食堂や地域のイベントなどを通して、より良いまちづくりを目指して活動をしていきますので見守っていただくと嬉しいです。多摩SDCでは、一緒に活動していただける方を募集しています。多摩区役所1階に事務所がありますので、お気軽にお立ちください！



明治大学学生団体MUAC

MUAC (みゅあつく) は、明治大学建築学科の有志学生による団体です。まちを身近に感じてもらうことを目標に、イベントやSNSで建築やまちの魅力を発信しています。昨年度は川崎市市制100周年記念事業として「川崎まちさんぽスタンプラリー」やワークショップを開催し、Instagramでは公共建築の魅力を紹介しました。

現在は2～4年生の約10名で活動しており、少人数だからこそ一人ひとりが責任を持ち、上級生のリーダーシップと下級生の自由な意見が交わる風通しの良い雰囲気です。

きっかけは、川崎市から「公共建築の魅力を大学生から発信してほしい」と依頼を受けたこと。昨年度の初活動では企画から広報、運営までを学生主体で行い、地域に公共建築の魅力を伝えると同時に、建築業界の未来を担う人材育成も目指します。

今年度も川崎市と連携し、小学校とのワークショップや建築探検企画を計画中です。MUACのSNSや川崎市HPで情報発信していきます。未熟ながらも地域とともに活動を広げ、建築の魅力を伝えていきます。

特技を生かして地域に根ざした活動を



明治大学ボランティアサークルLINKs

明治大学生田キャンパスのボランティアサークルです。子ども食堂、環境・福祉ボランティア、復興支援など、関心に合わせて自由に参加できます。学年・学科を越えた学生が集い、特技を活かしながら協力し活動。ボランティアは真剣に、遊ぶ時は全力で楽しむ、メリハリのある雰囲気です。

活動に参加したメンバーの声を紹介します！
「挑戦したかったのと、先輩方の和気あいあいとした雰囲気の魅力を感じました」(R.H. 2年)
「先輩や友人の勧めで、ボランティアの魅力を知り参加しました」(S.T. 3年)
「長期休みに何か取り組みたいと思い、活動に参加しました」(A.S. 2年)

地域のみなさんに温かく迎えていただき、私たちが元気をいただいています。これからも学生らしく前向きに、地域に根ざした活動を続けていきます。



@LINKS_MEIJI

専修大学問題解決型チャレンジプログラム

このプログラムは、社会や企業などが抱える問題にチームで主体的に取り組み、チームメンバーや企業や団体の方と協力しながら問題発見や問題の解決策を提案する専修大学独自の長期の就業体験プログラムです。今年度は、新しい若い活動者たちに当センターの存在を知ってもらい、活用してもらえるような企画提案・実施をお願いしています。

私たちは、市民活動に興味を持ってもらい、かわさき市民活動センターの利用者を増やし、市民活動に気軽に参加できる環境を作ることを目指して取り組んでいます。そのために私たちは、現状を分析して課題に対し、より効果的な企画を行っていききたいと思っています。また自分たちが大学で学んでいる知識を実践的・総合的に活かし、真摯に課題に向き合っていきたいと思っています。チームの目標は、メンバー同士で協力しながら、個々のスキルアップを図り、社会で活躍できる力を身に付けていきたいと考えています。そして最後には企画で成果を上げ、チーム・個人ともに成長できたと振り返ることができるように頑張っていきます！！

